

教職員の皆様へ

教育センターだより【6号】

令和6年9月4日 発行



518-0485

三重県名張市百合が丘西5番町25番地

教育支援センター(さくら教室) 2F

Tel 0595-63-7830

Fax 0595-64-8802

事務室・教育よろず相談 1F

E-mail:sakura@nabari-mie.ed.jp

Tel 0595-64-8801 Fax 0595-64-8802

E-mail:kyouiku-ce@city.nabari.lg.jp

学校ボランティア室 1F

minakuru01@nabari-mie.ed.jp

Tel 0595-64-8864

Fax 0595-64-8802

ホームページ <http://www.nabari-mie.ed.jp/minakuru/>

教育センターホームページ二次元コード



令和6年度 名張市教育センター 夏季研修講座報告第1弾

夏季休業中に教育講演会を含め、17の研修講座を実施することができました。熱心に学び続ける先生方の姿がとても印象的でした。2学期からの取組にぜひ繋げてください。

授業改善への1歩に～研修講座から学ぶ～

【教育講演会】

学校と保護者のいい関係づくり

～トラブルを大きくさせないために学校が気をつけるべきこと～

小野田正利 大阪大学大学院人間科学研究科名誉教授

講演会の中で、保護者対応では「法的な知識を基盤とした誠実な対応」が大切だとお話いただきました。その中でも誠実な対応として、保護者の方に連絡を密にすること。子どもたちを第一に考えていることを保護者に示すなどを教えていただきました。

多様化する時代の中で、保護者も子どものことを大事に考えています。子どもを大切に思う気持ちをていねいに受け止め、保護者が訴えてきている内容をしっかりと捉えることで、保護者との関係が良好に導かれます。一方で適切な距離を保ちながら対応することも大切です。

また、チーム学校として、保護者対応で困ったことがあった時には、自分一人で抱え込まず、情報を交換しながら、教職員で知恵を出し合い、助け合いながら対応することがとても重要です。



【授業改善】

授業づくりの基礎・基本

一指導案(発問・指示、めあて、ふりかえり等)作成に焦点化して～

森脇健夫 武庫川女子大学教授



森脇先生の講話の中で、授業中、子どもたちに「気づいたことはありますか。」と発問をしていないかとありました。このような発問は多様な発言を引き出し、グループで活発な発言、対話がなされているように見えますが、視点が明確でないため、子ども一人ひとりに確実な力がついていないことがあります。

子どもたちの学びを深めるためには、具体的で焦点化された発問が重要になります。教師自身が、子どもたちに何を教えて、何を考えさせるかを明確にすることが授業づくりでは大切だと教えていただきました。

【国語】

どの子ども前のめりになる書くことの授業づくり

－書き慣れからタブレット活用まで－

森川正樹 関西学院初等部教諭

森川先生から「書く力を身に付けるためには、まず『書く耐性』をつけていくことが大切」と教えていただきました。

書くことに苦手意識のある子どもたちが『書く耐性』をつけ、書けるようになるためには、少しずつ段階を踏み、書くことに対する抵抗感をなくしていくことや、「できた」を増やしていくことが重要であることを教えていただきました。子どもたちに自信をつけ、達成感を得られるようにすることは自己有用感を高め、学級経営についてもつながる指導のポイントについて教えていただきました。

具体的には、『書く耐性』をつけるために、たくさん言葉を書くことが重要であり、そのための手立てとして、「箇条書きの鬼」「〇〇の信号機」「バラエティ日記」など森川先生の実践例を学びました。



【算数・数学】

算数・数学授業で子どもの思考を揺さぶる

－小中接続を視野に－

舟橋友香 奈良教育大学准教授



舟橋先生から、授業づくりをするときには、児童生徒の持っているルーチン（誤の法則、決まった考え方）を理解して揺さぶりをかけることの重要性について教えていただきました。

児童生徒の持っているルーチンが何かを理解し、問いに対してどのように考えて、誤答にたどり着いたのかを考察することが大切で、子どもたちの誤答から学ぶ授業づくりについて教えていただきました。

実際の授業の動画で、子どもたちが問いに対してのつまずきを乗り越えるために、教師がどのような手立てを講じるのか、発問・指示について学ぶことができました。

思考を揺さぶる算数・数学にするために、教師がこだわるところは何か、教材研究をしていきましょう。

【外国語】

「ホンモノ」にこだわる！－アウトプットを充実させる英語の授業づくり－

井上 大 三重大学教育学部附属小学校教諭

庄山大樹 三重大学教育学部附属中学校教諭

井上先生から、英語は出会いがとても重要とお話があり、中学年の外国語活動の中で、「楽しい！できた！」をくりかえし味わわせ、英語の授業は楽しいと伝えることが大切と教えていただきました。そのためには、教科書の中だけの学びではなく、伝えたい相手を意識しながら表現したり生活の中で活用したりすることで、学びが定着することを学びました。

庄山先生からは、アウトプットを充実させるための授業づくりについて実践を元にスモールトークについてご講話いただきました。スモールトークは、子どもたちが楽しく会話したくなるようなテーマ設定、お互いが会話できるしかけが大切で、毎時間くりかえし実施することが大切であると教えていただきました。できるようになるまでには時間がかかりますが、こんな姿になってほしいと思って取り組むことが重要と教えていただきました。

